

ように去べし、互に仁慈を憐恤あへし、キリストに在て神なんからを赦し給へる如く、爾曹も互に赦すべし。  
 爾爾曹私を得る日の爲に彼の印を受し者あり。爾曹すべての狼毒、恚憤、忿怒、喧嘩、訾議、一切の惡を已  
 れ惟時に彼ひて人の徳を建てき善事を以て聽者をして益あらしむべし。神の聖靈をして覺しむること勿  
 爲なかれ、寧ろ貧者に施さんために、手つから善工を作べし。凡て清たる言を爾曹の口より出すこと勿  
 を犯すこと勿れ。怒て日の入までに至ること勿れ。惡魔に處を得ざること勿れ。竊をする者復ぬすみを  
 て造れる新人を衣るべし。斯て謊言を去おのし。其隣に眞を言べし。蓋ひれら互に欺かれべ也。怒て罪  
 かどち人を責えず。徳の爲に境らるるものを脱。また爾曹の心の靈を新にし。神に象りて真理の義と深く  
 學べるに非ず。爾曹かれ亦聞かれの教を愛てイエスにあたる真理を知し、ならん。かんちちら風に習る舊人す  
 徒等、罪を知らず。好て凡の汚を行て人爲に己を放蕩なせり。然ど爾曹ハ此の如く行て人爲にキリストを  
 あるに任せて行ふべからず。かた心昏き者あり。又知てどろ無により頑なるお因て神の生を遺かれり。  
 由て徳を建るなり。○是故に我にこれを用ひ、主を在て爾曹を戒む。爾曹今よりのち異邦人の如く、其心の邪曲  
 とし全體すべての百節の助みよりて聯絡鞏固の肢體か、分量も備ひ、方行て其体を育み、みつから愛わ  
 様の教の風も搖動されず。愛をもて真理を行ひ、長て凡のことで首なるキリストを效し、めん爲なり。彼を本  
 の満足るほどと成せ、あ至り。今よりのち嬰兒ならず人の詭譎の術と、感の巧に、謙遜するべし。かく各  
 の事を行ひ、キリストの體の徳を建。我儕をして皆おなしく神の子を信じ之を知り、全人すなちキリスト  
 に滿れとす。○是賜ひし所、使徒より預言者あり、傳道者あり、牧師あり、教師あり。これ聖徒を全うし、服従

1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100

より以來かくれたる奧義如何を衆の人お悟らしむ。これ教會を以て、天の處に在る政を執る者と權威を有  
 る者に神の萬殊の智慧を知しめん爲なり。此ハ神々々の先より定め給ひし旨に循へる也。この旨ハ我儕の  
 主キリストイエスに由て成就せり。我儕キリストイエスに在て之を信するおより應じざることを得また  
 懼ることなくして神お近くして神お近くてを得たり。是故に我爾曹お求め、爾曹の爲に受る患難により、怯ること勿  
 れ。此んちの榮なり。此此に縁て我儕の主イエスキリストの父即ち天と地に在る諸族の彼を由て名を得  
 じ者の父に跪きて、願ふハ其榮の富も備ひ、其靈をもて爾曹は東の人を剛健おし、又キリストをして信  
 仰し、由て爾曹の心お居しめ。また爾曹をして愛も根し、愛を基として諸の聖徒と偲に、側る可らざるキリス  
 トの愛を知。その潤き長き深き高きを、識らし、又すべて神に満るものを、爾曹お滿しめ給えんと也。願  
 へ。我儕は、中お行へ、能ハ亦備ひて我儕は、求るところ思ふ所、より、甚く過れる事を、行得る者お、キリス  
 トイエスおより、教會中おて、世々窮なく榮を歸せんことを、アメン。  
 然れば、主お在て囚人おなる我なんから、お勸なんから、召れし召を、符て、行んことを、  
 と柔和と寛容なる心を以て、行ひ、愛を以て、互お忍び、平和といふ、業に、申お務て、靈の賜、よす所、一なるを、守る  
 べし。一體ハ、一なり、爾曹の、召れて、有つ所、の望の、一なる、が如し、主一信仰、一ブラテス、一神、すなは  
 ち、萬人の、父、一なり、彼ハ、萬人の上、おあり、萬人お實さ、萬人の中、お在、われら、各人お、キリス  
 トの、父、  
 循ひて、恩を賜ふなり。是故に、お云、  
 上お、昇さりと、謂ハ、先地、  
 上お、昇さりと、謂ハ、先地、  
 上お、昇さりと、謂ハ、先地、  
 上お、昇さりと、謂ハ、先地、

1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100



【第五節】**あなたがら愛せらるゝ眞女の如く神に效ふべし** また愛を以て行ひキリストの我儕を愛し我儕に代て己を犠牲となし犠牲となして神の前に馨香あらしめんとて獻給ひしが如すべし 聖徒たるに得ん

とぞく奸淫および凡の淫穢たる事また貪婪とを互に言て互に爲勿れ 淫僻と持言と虚言を言なかせしは宜からざる事なり馨香を請するを以てすべし 蓋すべて汚穢するもの汚穢たる者および貪婪者なせり

偶像を拜む者のキリストと神との國を嗣を得ざることを爾曹知ばなり ならんぢ人の虚言に欺かること勿れ神の怒これらの事に因て普通者に至るなり 是故爾等と與するを勿れ 爾曹も暗かりしが

今主に在て光れり光れり光の子輩の如く行ふべし 蓋光の結ぶ所の果は諸の仁と正義とを誠實の中にあれ

ばなり 主の物々所を辨へて之を行ふべし ならんぢら果を結ぶ暗行に與することなく反て之を賣べし 彼等が應にて行ふ所の事ハ之を言だにも觀べき事なり 凡て責を受べきことハ光も由て懸るゝなり

蓋すべてを顯す者ハ光なれば也 是故に云る言わたり察たる者よ目を醒し死より起りキリストを照さん

然る爾曹も少しみて行を堅くすべし 知らざる者の如くせず智者の如くして 權を棄てべし 是時惡ければ是故も思ふる者ぞ爲てなく主の旨ハ如何に識るべし また酒に酔ふこと勿れ之をなすハ放蕩なり宜

しく靈に觸るべし 互に詩と歌と歌と歌と感して作れる頌を以て語りあひ又うたひて爾曹の心お主を讃美すべし 凡の事につきて恆に我儕の主イエスキリストの名を記して神則ち父に謝すべし キリストを畏

るゝ心を以て互に服ふべし 〇 婦なる者よ主を服ふが如く己の夫を服ふべし 蓋キリスト教會の首なる如く夫の首なるが如くキリストの身の救主なり 然る教會のキリストも服ふ如く婦も凡のことで夫を服

ヨハネ二章五節 六節 七節 八節 九節 十節 十一節 十二節 十三節 十四節 十五節 十六節 十七節 十八節 十九節 二十節 二十一節 二十二節 二十三節 二十四節 二十五節 二十六節 二十七節 二十八節 二十九節 三十節 三十一節 三十二節 三十三節 三十四節 三十五節 三十六節 三十七節 三十八節 三十九節 四十節 四十一節 四十二節 四十三節 四十四節 四十五節 四十六節 四十七節 四十八節 四十九節 五十節 五十一節 五十二節 五十三節 五十四節 五十五節 五十六節 五十七節 五十八節 五十九節 六十節 六十一節 六十二節 六十三節 六十四節 六十五節 六十六節 六十七節 六十八節 六十九節 七十節 七十一節 七十二節 七十三節 七十四節 七十五節 七十六節 七十七節 七十八節 七十九節 八十節 八十一節 八十二節 八十三節 八十四節 八十五節 八十六節 八十七節 八十八節 八十九節 九十節 九十一節 九十二節 九十三節 九十四節 九十五節 九十六節 九十七節 九十八節 九十九節 百節

ふべし 夫なる者よキリストの教會を愛し其爲に己を捨給ひも如く爾曹も婦を愛すべし かれ己を捨給ひ水の流を以て道を開いて教會を導め之を聖なる者とせんが爲なり また黒くなく白く 凡て此の如き類なく卑小して卑なき教なる教會を自ら己の前小せんが爲なり 此の如く夫の爲に己の身となして愛すべし 知るを愛する者ハ己を愛する也 己の身を愛しむ者ハ骨と皮と肉とを以て有て有て己を愛すべし 蓋キリストの教會を以て愛する者ハ己の身を愛する者ハ己の肉より出たり 是故にハ父と母を離れ其婦を離るべし 我儕の肉より彼が肉より出たり 骨より出たり 是故にハ父と母を離れ其婦を離るべし 蓋キリストの教會を以て愛する者ハ己の肉より出たり 骨より出たり 是故にハ父と母を離れ其婦を離るべし 蓋キリストの教會を以て愛する者ハ己の肉より出たり 骨より出たり 是故にハ父と母を離れ其婦を離るべし

【第六節】**子なる者よ爾曹主に在て爾曹も主たがふべし** 是合宜なれば也 爾の父母を敬ふべし 約束を加へたる誠ハ之を首とす 此の爾が得た地上に壽長からんが爲なり 父なる者よ爾曹の手を怒すること勿れ 主の懲罰と教訓を以て養育べし 僕なる者よキリストに服ふが如く 畏懼戰慄せよとの心をもて肉體に屬する主人を服ふべし 人を恨む者の如く只眼前の事を務ると勿れ キリストの僕の如く心より神の旨を行ふべし 人に事するが如くせず主事するが如く 甘心つかふべし 〇 我儕なる者よ 爾曹も亦かくの如く彼等もあれ 各行入所の善を爾曹に主より報を受んことを爾曹知ざなり 主人なる者よ 爾曹も亦かくの如く彼等に行ひて 厲言を止し蓋かれらと爾曹の主天お在かれハ 爾曹知ざなり 〇 此他なほ言ん我兄

弟よ主がよび其大なる能を頼て 剛健なるべし ならんぢら惡魔は奸計を擧ぐ爲に神の武器を以て裝ふべし 我儕ハ血肉と軀とを非ず 故に權威とた欺世の幽暗を穿てる者また天の處にある惡の靈と戰ふなり

【第七節】**第六** 自二十五至六章十三節

【第八節】**第六** 自二十五至六章十三節

【第九節】**第六** 自二十五至六章十三節

【第十節】**第六** 自二十五至六章十三節

【第十一節】**第六** 自二十五至六章十三節

【第十二節】**第六** 自二十五至六章十三節

【第十三節】**第六** 自二十五至六章十三節

ヨハネ二章五節 六節 七節 八節 九節 十節 十一節 十二節 十三節 十四節 十五節 十六節 十七節 十八節 十九節 二十節 二十一節 二十二節 二十三節 二十四節 二十五節 二十六節 二十七節 二十八節 二十九節 三十節 三十一節 三十二節 三十三節 三十四節 三十五節 三十六節 三十七節 三十八節 三十九節 四十節 四十一節 四十二節 四十三節 四十四節 四十五節 四十六節 四十七節 四十八節 四十九節 五十節 五十一節 五十二節 五十三節 五十四節 五十五節 五十六節 五十七節 五十八節 五十九節 六十節 六十一節 六十二節 六十三節 六十四節 六十五節 六十六節 六十七節 六十八節 六十九節 七十節 七十一節 七十二節 七十三節 七十四節 七十五節 七十六節 七十七節 七十八節 七十九節 八十節 八十一節 八十二節 八十三節 八十四節 八十五節 八十六節 八十七節 八十八節 八十九節 九十節 九十一節 九十二節 九十三節 九十四節 九十五節 九十六節 九十七節 九十八節 九十九節 百節



是故に神の武具を取べし是れわしき日に遇て敵を御ぎ凡の事を成就して立ん爲なり ならんちら立お脚を帯として腰に結ひ義を護胸として胸を當 和平なる福音の備を鞋として是に穿 此はか信仰の盾を取べし 此盾をもて悪く惡者の火筒を滅くことを得ん 又た救の胃および聖靈の劍すなわち神の遺を取 恒わ各樣の禮告と祈求を以て靈を由て求かつ諸の聖徒の爲おほく憐みて此事をなし祈りて倦ざるべし 且わ口を啓どき言を賜より侃々して福音の奧義を示し 又わが言べき所の如く之を侃々して言得やう我ためにも 祈るべし我この福音の爲に倒れ者あかりて鍵を繫れたり ○ 愛する兄弟主お忠心にて事するキコわが如何して在か我事を爾曹お告知せん 我かれを特爾曹に遣すハ爾曹お我事を知せ又彼をして爾曹の心を慰めん爲かり 願くハ兄弟父なる神と主イエスキリストより信仰わ加て平康と愛を得んことを 願くハ我儕の主イエスキリストを愛しあがして愛する凡の者お慰わらんことをアミニ

新約全書以弗所書終

イ 前二〇  
 一節一〇  
 二節一〇  
 三節一〇  
 四節一〇  
 五節一〇  
 六節一〇  
 七節一〇  
 八節一〇  
 九節一〇  
 十節一〇  
 十一節一〇  
 十二節一〇  
 十三節一〇  
 十四節一〇  
 十五節一〇  
 十六節一〇  
 十七節一〇  
 十八節一〇  
 十九節一〇  
 二十節一〇  
 二十一節一〇  
 二十二節一〇  
 二十三節一〇  
 二十四節一〇  
 二十五節一〇  
 二十六節一〇  
 二十七節一〇  
 二十八節一〇  
 二十九節一〇  
 三十節一〇  
 三十一節一〇  
 三十二節一〇  
 三十三節一〇  
 三十四節一〇  
 三十五節一〇  
 三十六節一〇  
 三十七節一〇  
 三十八節一〇  
 三十九節一〇  
 四十節一〇  
 四十一節一〇  
 四十二節一〇  
 四十三節一〇  
 四十四節一〇  
 四十五節一〇  
 四十六節一〇  
 四十七節一〇  
 四十八節一〇  
 四十九節一〇  
 五十節一〇

新約全書使徒パウロピレバ人お贈る書  
 キリストイエスの僕パウロピレバ人お居どころのキリストイエスに在するすべての聖徒および監督執事に書を遣る 願くハ爾曹われらの父なる神および主イエスキリストより恩寵と平康を受よ  
 なんちら始の日より今に至るまで常に福音に與るに縁われ爾曹を思ふに我神に謝す 又た恒爾曹衆の爲に祈求せんと欣びて求ん 爾曹の心の中に善工を始し者之れを主イエスキリストの日までに全しすべし我ふかく信す 此の如く思ふハ宜なり爾曹つねに我心に在に縁ろハ我が線に在に及び福音を辨明し之を堅固する時も爾曹ハ皆われと偕に我が受る恩に與れ心也 我キリストイエスの心を以て爾曹衆を懇慕ふことお就てハ其證をさす者ハ神なり 又た爾曹の愛知識と諸の智慧の中に益 大に爲て最も勝たる所を辨へ知りキリストに由る義の果を滿せて神の榮光と讚美を顯はしキリストの日の爲おぼして過なからんことを祈る ○ 兄弟よ願くハ爾曹わが身に在し所のこととて福音の進行く 則となりしを知れ 斯て我が線に羅じハキリストの爲なること既に王を護る所の陣營および他の人々にも凡て明に知れたり わが線に因て兄弟等おほくハ主を信するの心を篤くし益 更に憚るることなく道を傳ふ 又た猜忌と分争に因てキリストを宣る者あり又兼意に因て之をなす者あり 彼ハ我が線純の苦を増加んことを欲し誠の心なく黨を結ぶ心よりキリストを宣 此ハ我が福音を辨明する爲に立ちしことを知り愛心よりキリストを宣 然らば如何孰にもわれ或ハ偽あるハ誠どもに宣る所ハキリストとなれば我之れを喜ぶ且つねに喜ぶん 蓋この事の爾曹の祈禱とイエスキリストの靈の助に因て終に我が救なる可を知んなり 是わが切に願ふどころ望どころ即ち我が凡の事に愧ることなく今も常の如

イ 前二〇  
 一節一〇  
 二節一〇  
 三節一〇  
 四節一〇  
 五節一〇  
 六節一〇  
 七節一〇  
 八節一〇  
 九節一〇  
 十節一〇  
 十一節一〇  
 十二節一〇  
 十三節一〇  
 十四節一〇  
 十五節一〇  
 十六節一〇  
 十七節一〇  
 十八節一〇  
 十九節一〇  
 二十節一〇  
 二十一節一〇  
 二十二節一〇  
 二十三節一〇  
 二十四節一〇  
 二十五節一〇  
 二十六節一〇  
 二十七節一〇  
 二十八節一〇  
 二十九節一〇  
 三十節一〇  
 三十一節一〇  
 三十二節一〇  
 三十三節一〇  
 三十四節一〇  
 三十五節一〇  
 三十六節一〇  
 三十七節一〇  
 三十八節一〇  
 三十九節一〇  
 四十節一〇  
 四十一節一〇  
 四十二節一〇  
 四十三節一〇  
 四十四節一〇  
 四十五節一〇  
 四十六節一〇  
 四十七節一〇  
 四十八節一〇  
 四十九節一〇  
 五十節一〇



又膾炙生るにも死るもキリストをして我が身に因て奪められえめん意人に應へり わが生るハキ  
 リストの爲また死るも我が益なり 然て肉骸わ在て生ると若わが上の果を結ぶ根本とあるべクハ何ぞ  
 撰ぶべきか我れこれを知す 我この二の間お介れたり我が願ハ世を捨てキリストと共に在んこと也これ最  
 も美事なり 然て我が肉骸お居るハ爾曹の爲更必要なり われ深く此事を信するが故お存へて爾曹衆  
 の人と共に世お住爾曹をして信例を益しめ信仰より出る喜びを得しむるお至らんことを知れ再び爾  
 曹と共に居ハ爾曹の喜びわれに因てイエスキリストの中お益大あらん 我たも爾曹おキリストの福音に  
 符入行をせんことを勸む是わが住居に於て爾曹を兄と見ても爾曹の事を聞とさも爾曹が靈を一にして堅く立  
 福音の道に爲お心に向うして力を協せ 凡の事につき敵に驚かさざらんとて知ん爲なり凡て敵に驚  
 こざるハ敵にハ亡の徴ならに救の徴なり是神より来るあり 爾曹お賜入所の恩ハキリストの  
 爲に第これ信するとて而巴からず亦これ爲お苦を受るとをも賜られた也 今おんからお患難わ  
 即ち曩に爾曹が聞とてこの我にわ患難と向て

**第三節** 若キリストにある勳と愛による慰と靈の交際と慈悲と矜恤とわちハ  
 を同らし意を合せて念ふことを一にして我が喜を滿しめハ 何事を思ふおも 爾曹を結ぶ或ハ虚榮を求る心  
 を懷べからず各々誠りたる心を以て互お人を己お念りて爲よ 又おの己が事のみを顧みず人の事を  
 も顧みよ 爾曹おキリストイエスの意を以て意とすべし 彼ハ神の體にて居しかども自ら其神と匹く在  
 てこの事を棄難きことと意とす 反て己を虚らし候の貌をとりて人の如なれり 既に人の如き形狀にて  
 現れ己を卑し死に至るまで順ハ十字架の死をさへ受るに至れり 是故お神り甚しく彼を崇て諸の名お超

一 六〇六廿  
 二 六〇七廿  
 三 六〇八廿  
 四 六〇九廿  
 五 六一〇廿  
 六 六一一廿  
 七 六一二廿  
 八 六一三廿  
 九 六一四廿  
 一〇 六一五廿  
 一一 六一六廿  
 一二 六一七廿  
 一三 六一八廿  
 一四 六一九廿  
 一五 六二〇廿  
 一六 六二一廿  
 一七 六二二廿  
 一八 六二三廿  
 一九 六二四廿  
 二〇 六二五廿  
 二一 六二六廿  
 二二 六二七廿  
 二三 六二八廿  
 二四 六二九廿  
 二五 六三〇廿  
 二六 六三一廿  
 二七 六三二廿  
 二八 六三三廿  
 二九 六三四廿  
 三〇 六三五廿  
 三一 六三六廿  
 三二 六三七廿  
 三三 六三八廿  
 三四 六三九廿  
 三五 六四〇廿  
 三六 六四一廿  
 三七 六四二廿  
 三八 六四三廿  
 三九 六四四廿  
 四〇 六四五廿  
 四一 六四六廿  
 四二 六四七廿  
 四三 六四八廿  
 四四 六四九廿  
 四五 六五〇廿  
 四六 六五一廿  
 四七 六五二廿  
 四八 六五三廿  
 四九 六五四廿  
 五〇 六五五廿  
 五一 六五六廿  
 五二 六五七廿  
 五三 六五八廿  
 五四 六五九廿  
 五五 六六〇廿  
 五六 六六一廿  
 五七 六六二廿  
 五八 六六三廿  
 五九 六六四廿  
 六〇 六六五廿  
 六一 六六六廿  
 六二 六六七廿  
 六三 六六八廿  
 六四 六六九廿  
 六五 六七〇廿  
 六六 六七一廿  
 六七 六七二廿  
 六八 六七三廿  
 六九 六七四廿  
 七〇 六七五廿  
 七一 六七六廿  
 七二 六七七廿  
 七三 六七八廿  
 七四 六七九廿  
 七五 七八〇廿  
 七六 七八一廿  
 七七 七八二廿  
 七八 七八三廿  
 七九 七八四廿  
 八〇 七八五廿  
 八一 七八六廿  
 八二 七八七廿  
 八三 七八八廿  
 八四 七八九廿  
 八五 七九〇廿  
 八六 七九一廿  
 八七 七九二廿  
 八八 七九三廿  
 八九 七九四廿  
 九〇 七九五廿  
 九一 七九六廿  
 九二 七九七廿  
 九三 七九八廿  
 九四 七九九廿  
 九五 八〇〇廿  
 九六 八〇一廿  
 九七 八〇二廿  
 九八 八〇三廿  
 九九 八〇四廿  
 一〇〇 八〇五廿

る名を之に守へ給へり 此ハ天お在るもの地に在るもの及び地の下にある者をして悉くイエスの名に由て勝  
 を屈じめ 且もろの舌をして悉くイエスキリストハ主なりと稱揚して父なる神に榮を歸せしめん爲  
 なり 然ハ我が愛する所の者も爾曹常に服へる如く畏懼戰慄して己が救を空うせよ我とも居りし時のみ  
 ならず我をらざる今ハ特に然すべき也 爾神の善旨を行えんとて爾曹の衷にはたらき爾曹をして志  
 をたて事を行としむれ也 凡のこそ怨言とぞなく又爭辨とぞ無して行へし 此れ爾曹が垢なく難な  
 く神の子となり曲れら邪なる時代にて責べき所なからん爲なり 爾曹ハ此時代に在て光の如く世お顯之  
 れ 生命の道を俵てり 斯てキリストの日の爲に我をして我が行ひしことら勞苦し所のこの徒然ならざ  
 るを喜せしめよ 爾曹の信仰を世物として蘇んかり假ひ我が血を流して濯ごも我れを喜せん 爾曹衆の  
 人と共に喜せん 爾曹も之が爲に喜べ我と共に喜べ 我おんからが事情を去り心を慰めんがため速かに  
 コモラと爾曹に遣さんことを主イエスお勸て望む 蓋かれの外に我と共に心をも以て爾曹の事を眞實に慮  
 る者なけれ也 多人の皆おのが事のみを求めてイエスキリストの事を求めず 然てラモアの鍛錬な  
 ることハ爾曹の知とらんなり 故ハ子の父に於る如く我と共に其お福音の爲お勤たり 是故に我おが事  
 に如何なるかを知りて爾曹を遣さんと思ひ 亦われも自ら速かに往んことを主お勸て堅く信す 然て亦  
 我かならず先んちからの供へて我が之を神に奉じ 亦共に戦をなせる我が兄弟エバソロプトを  
 爾曹に遣さん可らずと意へり 蓋し此巴の曩に病たる事の爾曹お聞えしを以て深く爾曹衆の人を懇慕  
 かつ憂悶をれ也 實に彼ハ病に遇て死に近けり 然て神これをお憐み給へり 惟かれを憐むのみなら  
 ず我をも憐み我をして我の憂に憂を重ざらしむ 是故に我いよ速かに彼を遣さん 爾曹をして再び

一 八〇六廿  
 二 八〇七廿  
 三 八〇八廿  
 四 八〇九廿  
 五 八一〇廿  
 六 八一〇廿  
 七 八一〇廿  
 八 八一〇廿  
 九 八一〇廿  
 一〇 八一〇廿  
 一一 八一〇廿  
 一二 八一〇廿  
 一三 八一〇廿  
 一四 八一〇廿  
 一五 八一〇廿  
 一六 八一〇廿  
 一七 八一〇廿  
 一八 八一〇廿  
 一九 八一〇廿  
 二〇 八一〇廿  
 二一 八一〇廿  
 二二 八一〇廿  
 二三 八一〇廿  
 二四 八一〇廿  
 二五 八一〇廿  
 二六 八一〇廿  
 二七 八一〇廿  
 二八 八一〇廿  
 二九 八一〇廿  
 三〇 八一〇廿  
 三一 八一〇廿  
 三二 八一〇廿  
 三三 八一〇廿  
 三四 八一〇廿  
 三五 八一〇廿  
 三六 八一〇廿  
 三七 八一〇廿  
 三八 八一〇廿  
 三九 八一〇廿  
 四〇 八一〇廿  
 四一 八一〇廿  
 四二 八一〇廿  
 四三 八一〇廿  
 四四 八一〇廿  
 四五 八一〇廿  
 四六 八一〇廿  
 四七 八一〇廿  
 四八 八一〇廿  
 四九 八一〇廿  
 五〇 八一〇廿  
 五一 八一〇廿  
 五二 八一〇廿  
 五三 八一〇廿  
 五四 八一〇廿  
 五五 八一〇廿  
 五六 八一〇廿  
 五七 八一〇廿  
 五八 八一〇廿  
 五九 八一〇廿  
 六〇 八一〇廿  
 六一 八一〇廿  
 六二 八一〇廿  
 六三 八一〇廿  
 六四 八一〇廿  
 六五 八一〇廿  
 六六 八一〇廿  
 六七 八一〇廿  
 六八 八一〇廿  
 六九 八一〇廿  
 七〇 八一〇廿  
 七一 八一〇廿  
 七二 八一〇廿  
 七三 八一〇廿  
 七四 八一〇廿  
 七五 八一〇廿  
 七六 八一〇廿  
 七七 八一〇廿  
 七八 八一〇廿  
 七九 八一〇廿  
 八〇 八一〇廿  
 八一 八一〇廿  
 八二 八一〇廿  
 八三 八一〇廿  
 八四 八一〇廿  
 八五 八一〇廿  
 八六 八一〇廿  
 八七 八一〇廿  
 八八 八一〇廿  
 八九 八一〇廿  
 九〇 八一〇廿  
 九一 八一〇廿  
 九二 八一〇廿  
 九三 八一〇廿  
 九四 八一〇廿  
 九五 八一〇廿  
 九六 八一〇廿  
 九七 八一〇廿  
 九八 八一〇廿  
 九九 八一〇廿  
 一〇〇 八一〇廿



彼を見て喜べしめ且わが憂を滅さん爲なり 然レ爾曹主により喜びて彼を遣かつ此の如き人を尊ぶべし蓋かれバ己が命を懸す死んとするばかりキリストの爲に働きて我を明る所の赦を稱ひたれ也

**第三節** 終に我之れを言ん我兄弟爾曹主在て喜べ我之の事を爾曹に書おくるハ我亦煩勞なく爾曹に益あり 爾曹夫を恨め惡を行ふ者を恨め割を行ふ者を恨めスハ神の靈に由て得事をなすキリスト

イエズに由て詩り肉骸に情ざる我儕ハ眞の割禮を受たる者なれ也 然レ我また肉骸に情てを爲なり 若し人肉骸に情てを爲と意之レ我ハ更に情てを爲なり 我ハ第八日に割禮を受たる者にしてイエズ

エルサレムに於てニヤミツの支派ヱル人より生れたるヱル人なり律法に由ババカリサイの人 熱心に由バ割禮を會を築道もの律法に在てこの義に由バ堪なき者なり 然レ我が益となりし所は專ハキリストに由て損わりと意へり 然のみならず我わがキリストイエズを讓を以て最も益れる事とするが故に凡

たもれを損なす我かれの爲に既に此等凡のものを損せしかば之を賣すの如く意へり 是キリストを獲かつ信仰に基きて神より出る義すなち律法に由る己の義に非ざキリストを信するに由る所は義を有てキリストの中に居 また彼は其復生の能力を知り 死の罪に罹りて彼れ苦に與り 現にも角にも死たる者ハ雙てを待んが爲なり 我之れらの望を既に得たりと意に非ず亦すでに念せられたりと意に非ず

或り取てとわらんぞと我た之を求むキリスト之を得させんと我を執へ給へる也 兄弟よ我がつから之を以りてと意はず惟て此一事を爲す即ち後に在るものを忘れ前に在るものを學み 神キリストイエズに由て

人上召て賜ふ所の褒美を得んを懸念し 是故に我儕の中すべて全者ハ此の如き意を懷べし 爾曹もし何事に由る異なる意を懷かバ之をも神なんぢらに示し給えん 然レ我儕すでに到れる所にあり

五節 六〇六六節 〇  
六節 六〇六六節 〇  
七節 六〇六六節 〇  
八節 六〇六六節 〇  
九節 六〇六六節 〇  
一〇節 六〇六六節 〇  
一一節 六〇六六節 〇  
一二節 六〇六六節 〇  
一三節 六〇六六節 〇  
一四節 六〇六六節 〇  
一五節 六〇六六節 〇  
一六節 六〇六六節 〇  
一七節 六〇六六節 〇  
一八節 六〇六六節 〇  
一九節 六〇六六節 〇  
二〇節 六〇六六節 〇  
二一節 六〇六六節 〇  
二二節 六〇六六節 〇  
二三節 六〇六六節 〇  
二四節 六〇六六節 〇  
二五節 六〇六六節 〇  
二六節 六〇六六節 〇  
二七節 六〇六六節 〇  
二八節 六〇六六節 〇  
二九節 六〇六六節 〇  
三〇節 六〇六六節 〇  
三一節 六〇六六節 〇  
三二節 六〇六六節 〇  
三三節 六〇六六節 〇  
三四節 六〇六六節 〇  
三五節 六〇六六節 〇  
三六節 六〇六六節 〇

て同法に遵ひて行ふべし 兄弟よ爾曹みな我に效ふ者となれ且なんぢらの機構とある我儕に循ひて行ふ

なす者を禮よ 蓋われ風々なんぢらに告げ今また涙を流して爾曹に告る如くキリストの十字架に懸して

行ふ者多ければ也 彼等の終ハ滅亡なり己が腹を其神となし己が羞辱を其榮とす 彼等ハ惟世の事をのみ念へり 我儕の國ハ天に在れらハ救主即ちイエズキリストハ其處より來るを待 彼ハ萬物を己に服

之せうる能に由て我儕が卑き體を化て其榮光に體に象らしむべし

**第四節** 是故に我が愛するどころ慕ふ所の兄弟われの喜われの長たる我が愛する者よ今わが働る所に從

ひて爾曹堅く主に立べし 我ユウオヤに働めストクに働む彼等が主にありて心を同うせんとす

わが眞の侶よ請なんぢ此二人の婦等を助け 彼等クレメンヌ及び他の我が勞苦の侶なる人々ト力を協せ

我儕と共に勤て福音を傳播たり 彼等の名ハ生命の書に錄されり なんぢら常に主に在て喜べ我また

言なんぢら喜ぶべし なんぢら衆の人をして其寛容なることを知しめし主ハ近し 何事をも思ひ煩ふ勿

れ 唯毎事に祈禱をし懇求をし且感謝して己が求る所を神に告よ 神より出て人の凡て思ふ所に過る平安

ハ爾曹の心を意をキリストイエズに因て守らん 〇 兄弟よ終に我之れを言ん 凡る眞實なるて凡る敬ふ

べき事および公義とて凡る清潔とて凡る愛すべき事 および善稱ある事すべし 何なる徳いかなる譽にても

爾曹之れを念ふべし なんぢら我より學しどて受しどて開しどて見し所を皆わてなへ 然レ平安の

神爾曹と信ならん 〇 われ爾曹が我を思ふ心の今また漸く萌し 主に因て甚だ喜べり 爾曹ハ我より我

を念ふたれども機を得ざりし也 〇 われ之に因て之を言に非ず 蓋われ何なる狀に居らうれを以て足りすと

る事を學べバ也 〇 われ貧賤に居る道を如きた富厚に居る道を去り飽くとも飽くとも豊くとも豊くとも謙

一節 六〇六六節 〇  
二節 六〇六六節 〇  
三節 六〇六六節 〇  
四節 六〇六六節 〇  
五節 六〇六六節 〇  
六節 六〇六六節 〇  
七節 六〇六六節 〇  
八節 六〇六六節 〇  
九節 六〇六六節 〇  
一〇節 六〇六六節 〇  
一一節 六〇六六節 〇  
一二節 六〇六六節 〇  
一三節 六〇六六節 〇  
一四節 六〇六六節 〇  
一五節 六〇六六節 〇  
一六節 六〇六六節 〇  
一七節 六〇六六節 〇  
一八節 六〇六六節 〇  
一九節 六〇六六節 〇  
二〇節 六〇六六節 〇  
二一節 六〇六六節 〇  
二二節 六〇六六節 〇  
二三節 六〇六六節 〇  
二四節 六〇六六節 〇  
二五節 六〇六六節 〇  
二六節 六〇六六節 〇  
二七節 六〇六六節 〇  
二八節 六〇六六節 〇  
二九節 六〇六六節 〇  
三〇節 六〇六六節 〇  
三一節 六〇六六節 〇  
三二節 六〇六六節 〇  
三三節 六〇六六節 〇  
三四節 六〇六六節 〇  
三五節 六〇六六節 〇  
三六節 六〇六六節 〇



の事に於て我れを煎煉せり我れに力を与ふるキリストに因て諸の事を爲得るなり然ども我れが難難の際に我が助けを爲しに前に尊ビレバ人上爾曹もまた知わが福音を傳ふる如めニキリストを稱れざることを受てなして我れを助けし者ハ唯爾曹のみにして他の教會ハ此事ナかりキ爾曹ハ我レキリストに在して一處ならず二度までも人を遣へて我れが乏を助けたりわれ飢餓を來るに非ず唯なんぢらの益になる果の繁からんことを求めるなり我に諸物ヲなせりて餘あり我れすでにエパソデトの手より馨香にして神の享給入せりて悦給ふ所の祭物なる爾曹の餽贈を受け足り夫れが神ハ己の富に從ひてキリストイエスにより榮光を以て爾曹の乏せりてを稱ひ給はん願くハ我儕の父なる神に世々榮光あらんことをアリスニ爾曹キリストにある聖徒の如くお安を問われし信ある兄弟等なんぢらに安を問り諸の聖徒等なんぢらお安を問ハカサルの眷屬のもの別て爾曹お安を問り願くハ我儕の主イエスキリストの恩をんから衆人ど偕お在んてアリス

ルコ五〇五至五〇九  
コリ一七九  
テモ一八九  
テモ二〇八至二一〇  
テモ二一五  
テモ二二六  
テモ二二七  
テモ二二八  
テモ二二九  
テモ二三〇  
テモ二三一  
テモ二三二  
テモ二三三  
テモ二三四  
テモ二三五  
テモ二三六  
テモ二三七  
テモ二三八  
テモ二三九  
テモ二四〇  
テモ二四一  
テモ二四二  
テモ二四三  
テモ二四四  
テモ二四五  
テモ二四六  
テモ二四七  
テモ二四八  
テモ二四九  
テモ二五〇  
テモ二五一  
テモ二五二  
テモ二五三  
テモ二五四  
テモ二五五  
テモ二五六  
テモ二五七  
テモ二五八  
テモ二五九  
テモ二六〇  
テモ二六一  
テモ二六二  
テモ二六三  
テモ二六四  
テモ二六五  
テモ二六六  
テモ二六七  
テモ二六八  
テモ二六九  
テモ二七〇  
テモ二七一  
テモ二七二  
テモ二七三  
テモ二七四  
テモ二七五  
テモ二七六  
テモ二七七  
テモ二七八  
テモ二七九  
テモ二八〇  
テモ二八一  
テモ二八二  
テモ二八三  
テモ二八四  
テモ二八五  
テモ二八六  
テモ二八七  
テモ二八八  
テモ二八九  
テモ二九〇  
テモ二九一  
テモ二九二  
テモ二九三  
テモ二九四  
テモ二九五  
テモ二九六  
テモ二九七  
テモ二九八  
テモ二九九  
テモ三〇〇

新約全書使徒パウロコロサイ人に贈れる書  
記 爾曹の旨に由てイエスキリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモラニ書をキリストに在コロサイに在る所の聖徒と忠信の兄弟等に贈る願くハ爾曹われらの父なる神および主イエスキリストより恩寵と平康を受よ 我れら爾曹がキリストイエスを信する事と諸の聖徒を養する事とを聞て爾曹の爲に勸るとき恒に我儕の主イエスキリストの父なる神に感謝す爾曹が如此聖徒を養するハ爾曹の爲に天に望むる所のもの即ち義に福音の真理の道の中に聞し所のものを望むが故なりこの福音ハ世界に傳ふ如く爾曹も來れり且なんぢら之を聞て神の恩を眞實に曉し日より爾曹の中に果を結び益大なる所を如く世界にも果を結び大かなれりかく福音ハ我儕の養する同じ使徒エパソデより爾曹の學するもの地ニエバソデより爾曹の爲にキリストの忠信なる僕なり彼らに爾曹が靈に感して懷る愛を我儕に告げ故に我儕の事を聞し日より爾曹の爲に斷ず祈禱を且求め願くハ爾曹の予る諸の智慧と謙遜を以て悉く神旨を知凡の事主を憐れせんが爲り爾曹の意に循ひて日を送り凡の善事に因て果を結び且神を知に因て漸に徳を増また神の榮の權威に循ひて賜ふ諸の能力を得て強なり凡の事よこつて恒忍かつ久耐また我儕をして光にある聖徒の業の分を受るに堪る者とならしめ給ふ父の恩を感謝せんとを彼ハ暗の權威より我儕を救出して其愛子の國に遷し給へり我儕の子に由て贖すなぞち罪の赦を得たり彼ハ人の見とを得ざる神の狀にして查の遺れし物に先を生れし者なり 爾曹に由て萬物ハ遣れたり天に在るもの地上に在るもの人を見とを得るもの見とを得ざるもの或ハ位ある者あるハ主たる者あるハ政を執るもの或ハ權威あるもの萬物これに由て遣れたり且その遺れたるハ彼が爲なり彼

コロ一七九  
コロ一八〇  
コロ一八二  
コロ一八三  
コロ一八四  
コロ一八五  
コロ一八六  
コロ一八七  
コロ一八八  
コロ一八九  
コロ一九〇  
コロ一九一  
コロ一九二  
コロ一九三  
コロ一九四  
コロ一九五  
コロ一九六  
コロ一九七  
コロ一九八  
コロ一九九  
コロ二〇〇  
コロ二〇一  
コロ二〇二  
コロ二〇三  
コロ二〇四  
コロ二〇五  
コロ二〇六  
コロ二〇七  
コロ二〇八  
コロ二〇九  
コロ二一〇  
コロ二一一  
コロ二一二  
コロ二一三  
コロ二一四  
コロ二一五  
コロ二一六  
コロ二一七  
コロ二一八  
コロ二一九  
コロ二二〇  
コロ二二一  
コロ二二二  
コロ二二三  
コロ二二四  
コロ二二五  
コロ二二六  
コロ二二七  
コロ二二八  
コロ二二九  
コロ二三〇  
コロ二三一  
コロ二三二  
コロ二三三  
コロ二三四  
コロ二三五  
コロ二三六  
コロ二三七  
コロ二三八  
コロ二三九  
コロ二四〇  
コロ二四一  
コロ二四二  
コロ二四三  
コロ二四四  
コロ二四五  
コロ二四六  
コロ二四七  
コロ二四八  
コロ二四九  
コロ二五〇  
コロ二五一  
コロ二五二  
コロ二五三  
コロ二五四  
コロ二五五  
コロ二五六  
コロ二五七  
コロ二五八  
コロ二五九  
コロ二六〇  
コロ二六一  
コロ二六二  
コロ二六三  
コロ二六四  
コロ二六五  
コロ二六六  
コロ二六七  
コロ二六八  
コロ二六九  
コロ二七〇  
コロ二七一  
コロ二七二  
コロ二七三  
コロ二七四  
コロ二七五  
コロ二七六  
コロ二七七  
コロ二七八  
コロ二七九  
コロ二八〇  
コロ二八一  
コロ二八二  
コロ二八三  
コロ二八四  
コロ二八五  
コロ二八六  
コロ二八七  
コロ二八八  
コロ二八九  
コロ二九〇  
コロ二九一  
コロ二九二  
コロ二九三  
コロ二九四  
コロ二九五  
コロ二九六  
コロ二九七  
コロ二九八  
コロ二九九  
コロ三〇〇